



驚いた…

これは河々宮が  
迎先生の担当に  
なったばかりの頃の話…

こんなに  
アッサリと  
受け入れて  
もらえるとは

もしかして  
俺に気が  
あるのかな？

はぁ…

私は先生の  
作品にしか興味  
ないので  
早く新作書いて  
下さい



河々宮君  
キミ…

随分と地味な  
下着だな

それにしても

他人に  
見せる事は  
想定してませんから  
どうでも良い事  
でしょう



さっさと  
済ませて

執筆に  
とりかかって  
下さい

では  
遠慮無く……ッ

ズ  
ズ  
ズ

!!

ン

!!

ズ  
ズ!!  
ズ  
ズ!!

妻が相手では  
こんな初々しい  
反応は見れない  
からな

非常に  
助かるよ  
河々宮君

そんな……ッ  
いきなり……ッ

やはり今回は  
路線を変えて

陵辱色強めに  
しようかと  
思ってたね

ちよ……ッ  
路線変更なら  
ちゃんと  
打ち合わせで  
仰って下さい……!

なあに今だって  
打ち合わせの  
ような物だろう?

は  
は  
は

ズ  
ズ!!  
ズ  
ズ!!

ハ  
ハ  
ハ

あ



なんて...っ  
勝手な...ッ

ちょ...ッ  
あ...ッ  
激し...ッ  
先...生ッ

ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ



そろそろ  
イかせて  
もらうか

あ...ッ  
あ...ッ  
あ...ッ  
あ...ッ

ズッ  
ズッ  
ズッ  
ズッ



本当...に  
勝手な  
人ですね...ッ

まさか...  
臆内に...ッ

あ...ッ  
あ...ッ

は...ッ  
は...ッ



よし  
次はこれも  
使用しようか

既…そんな物  
入ら…

!?

ぬ

アッ!!

無理

ちゅほ

ニャニャ

ちゅほ

ふふふ  
思ってた以上に  
初々しい反応で

高ぶりが  
収まらない





処女だったのか？



不釣合な感度の高さ



初々しい  
膣の締まりに



まさか  
河々宮くん  
キン...

君のような魅力的な  
女性なら  
百戦錬磨の手練かと思  
っていたが

全くもって  
予想が外れたな

ギシ!

ギシ!

ギシ!

ギシ!

ギシ!





数時間後

また頼むよ  
河々宮君

忘れない内に  
執筆に  
取り掛かろう

キミのお陰で  
良いアイデアが  
浮かんだよ

